

令和 8 年 第 1 予算審査特別委員会討論要旨

◎新 政 会

新政会を代表して、第 1 予算審査特別委員会に付託されました議案第 1 号、令和 8 年度滝川市一般会計歳入歳出予算及び関連議案第 13 号、第 14 号、第 16 号から第 19 号及び第 21 号、第 22 号、第 24 号から第 27 号、第 31 号に対して、認定を可とする立場で要望意見を付して討論いたします。

令和 8 年度滝川市一般会計予算案は、市立病院に対する 14 億円の操出金など、厳しい財政状況のもと、駅周辺整備事業を断念して、B&G 海洋センターや子育てと健康の拠点、複合施設整備費など、子育て支援策や、中古住宅取得費助成など、市政全般に目配りした予算編成を決断した理事者に対し、敬意を表します。

歳入では、ふるさと納税額の上積みを目指し、魅力的な返礼品をつくるために「ふるさと納税商品開発販路拡大等補助金」創設に期待する。引き続き、首都圏での PR 活動はもちろん、あらゆる滝川の関係者及び団体・企業にも細かく PR を実施されたい。また、企業版ふるさと納税制度にも力を注いでいただきたい。

総務費では、國學院大学短期大学部との連携は、滝川市全体のまちの活性化に寄与するところ、大なのでより一層継続的な強化を図るべきと考える。

民生費では軽度・中等度難聴児補聴器購入費用補助制度など、障害者の立場に立った政策と、並びに増大する居宅介護に不安を抱く高齢者対策も早期に考えていただきたい。

農林業費として、ヒグマ対策は農業被害はもちろん人命にも関わる事業なので、ガバメントハンターの活動や、ヒグマゾーニング実施計画を綿密に立て、市民が安心して暮らせるまちをつくっていただきたい。

教育費として、文化大ホール建設の白紙撤回による文化連盟からの要望事項に真摯に最大限可能な予算編成を行ったことに努力を認める。街の文化活動が衰退しないよう、今後も丁寧な話し合いを求める。

以上新政会を代表しての賛成討論といたします。

◎市民ネットワーク

市民ネットワークを代表し、第一予算審査特別委員会に付託されました、議案第 1 号令和 8 年度滝川市一般会計歳入歳出予算、並びに関連議案について一括して可とする立場から討論いたします。

本市を取り巻く状況は、人口減少や物価高騰など依然として厳しい環境にあります。市民生活の安定と将来を見据えた施策を盛り込んだ予算編成にご尽力いただいた市長並びに理事者の皆さまに敬意を表します。

歳入では、ふるさと納税のさらなる推進や返礼品開発支援など、財源確保に向けた取組が進められており、今後の成果に期待するところであります。

歳出では、子育てと健康の拠点複合施設の整備や B&G 海洋センターのオープンなど、市民生活に身近な施策が進められるほか、小学校給食費の公費負担など子育て世帯の負担軽減につながる取組が盛り込まれております。今後は中学校も含めた支援のあり方についても検討が進められることを期待する。また、駅周辺整備については、旧スマイルビルの解体に向けた取組が進められる一方で、今後の整備方針については改めて検討が進められる段階にある。市民にとって分かりやすい将来像を示しながら、慎重かつ着実に議論が進められることを求めるものである。さらに、本市にお

いては、市立病院の経営改善や公共施設の更新など、将来にわたる大きな財源課題を抱えている。今後の財政運営にあたっては、単年度の事業だけでなく、中長期的な財政見通しを踏まえた計画的な事業執行が重要であり、持続可能な財政運営のもとで市民サービスの維持向上が図られることを期待する。

市民・議会・行政が連携し、本市の持続的な発展につながる施策が着実に進められることに期待し、市民ネットワークを代表して本予算案に対する賛成討論といたします。

◎会派清新

会派清新の代表として第1予算審査特別委員会に付託されました、令和8年度予算案に関連する議案第1号、13号、14号、16号から19号、21号、22号、24号から27号、31号のすべての議案を可とする立場で討論いたします。

はじめに、少子高齢化や中東情勢の緊迫化などの厳しい社会情勢と財政状況の中、予算編成に苦慮されたことに関して、市理事者並びに職員の皆さんに敬意を表します。

総務費について、駅周辺整備は本市の喫緊の大きな課題でしたが、市立病院の経営が厳しい状況になり計画は白紙になった。しかし、市民の安全のため、旧スマイルビルの解体を優先に進めることについては評価いたします。早期に駅周辺整備の筋道が示されるよう努力されたいと思います。

民生費については、子どもたちの育つ環境づくりについて新しい事業が行われることについて評価いたします。全ての子どもたちにとってよりよい子育て環境を構築するために、子どもたちが普段過ごしている教育機関との連携も検討していただきたい。

農林業費のヒグマ対策は、全道的な課題となっており、この冬は雪解けも早いため、対策は急がれることが望ましいと考えます。

土木費については、生活道路の補修は市民全生活に直結する問題です。予算が拡大されたことを評価するとともに、計画的に進められることに努力されたい。

教育費については、いじめや不登校は増え続けており、早期発見、早期解決を行うことが大切です。様々な事業を行うことを評価するとともに、今後いじめ、不登校が減少することを期待しています。

これをもって、第1予算審査特別委員会の賛成討論といたします。

◎公明党

公明党を代表し、令和8年度第1予算審査特別委員会に付託されました議案第1号と関連議案に対し、賛成の立場で討論いたします。

長期化する物価高騰で市民の生活は、まだまだ好転する兆しが見えない中、新年度予算を編成されました理事者・職員の皆さまに敬意を表します。以下、若干の意見を付します。

滝川駅前地区再生整備が白紙撤回されましたが、財政見通しが立った時には再び検討していただきたいと考えております。駅前に旧スマイルビルをこのまま放置しておくことが如何に滝川のイメージを損なうことにつながり、地域活性化の足かせとなり、中空知の中心市の責務を失うことにつながります。よって、撤去へ向けて動き出し、同時に巨額となる22億といわれる解体工事費投入という必要性を市民に理解していただくことが重要となってきます。新年度予算では、このほかに子育てと健康の拠点複合施設事業、B&G海洋センター整備事業、給食費無償化事業等、重要施策が盛り込まれております。

将来へ向けて重要施策を滞りなく執行できるよう更なるふるさと納税の寄附金の獲得と稼げる滝川市を目指すための仕掛けづくりを期待し、賛成討論いたします。

◎日本共産党

日本共産党の寄谷猛男です。第1 予算審査特別委員会に付託されました議案第1 号一般会計予算、及び関連議案すべてを可とする立場で討論を行います。

まずはじめに、新年度予算を編成された、理事者・職員の皆様に敬意を表します。

滝川市に住んで良かったと実感できるまちづくり、安心して子育てができるまちづくりである市民の暮らし・経済を支える事業の拡大について評価するものです。

小学校の給食費について国の負担分を超える部分を全額市が負担し、いわゆる給食無償化を実現したことを評価します。中学校についても、食材費の高騰分の公費負担を継続・更なる拡大をめざし、子育て世帯の経済的負担の軽減に取り組んでいただきたい。

身体障害者手帳の対象とならない軽度・中等度の難聴児に対して補聴器の購入費用が助成されることになりました。聞こえない、聞こえにくいことを理由とした教育を受ける上での不安や日常生活の不都合を取り除き、いきいきと学び、成長できる環境を整えるためとしています。障がい者として認定されていなくても日常生活に困難・不自由を抱えている市民はいます。常に市民に寄り添い市民が住んで良かったと思えるまちづくりに今後一層取り組んでいただきたい。

本年5月には新たなB & G海洋センター（通称：B & Gあそりバ）が開設します。子どもの学びや体験、体力づくりの機能を併せ持つ、全国初の複合型施設として子どもたちの豊かな心身の育成につながる環境づくりが進むわけですが、市内中学生以下の子どもの利用料金が無料となることの意義は大きいです。子どもたちがお金を持たなくても学び・遊べる居場所があることは、子どもはもちろん保護者も安心できます。

物価高騰が収まる気配のないなか国際情勢も不安を増しています。定住促進や地域経済の活性化を図るために新築住宅取得助成事業の継続に加え新たに中古住宅取得助成事業を実施することはマイホームの夢を叶える選択肢を広げるものであり評価します。

一旦停止とした滝川駅周辺地区再生整備事業が「白紙」とされましたが、旧スマイルビルの解体にむけて実施設計費等が計上されました。病院事業会計の収支改善や長期的な財政見通しを考慮すると解体事業は延期が望ましいと考えます。しかし、10年、20年と先延ばしにすることは好ましくなく、解体を可とするものです。

今後、具体化されるホール機能の整備については文化施設複合化事業として既存公共施設の跡地を活用した小規模ホールを検討するとしています。近隣の大ホールは現在、築20年くらいです。10年、20年先には老朽化が問題となり始めます。ホール機能の整備にあたっては近隣のホールの状態も考慮して100年の計として取り組んでいただきたい。

以上、討論いたします。。